



弘前大学医学部医学科 各学年のアウトカム

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
I. プロフェッショナルリズム	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師としてのプロフェッショナルリズムの本質を理解できる。 ● インフォームドコンセントについて説明できる。 ● 医師の社会的責任を自覚し、将来医師になる者としての自らの立場の重要性を理解できる。 ● たゆまず自己研鑽し続けるプロフェッショナルとしての基本的姿勢を身につける。 ● 他者を尊重し、常に良好なコミュニケーションを築くよう努めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 礼節(服装、態度、言葉遣い、行動)をわかまえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報保護の重要性を理解し、守秘義務を守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療現場において適切な服装、態度、言葉遣い、行動をとることができる。 ● 医師法を含む医療関連法規を理解し、順守できる。 ● 医師のプロフェッショナルリズム(社会的責任・自己研鑽・他者への配慮)を意識した医学知識・臨床技術の学習を通じ、臨床的判断力の醸成に努めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者・家族と信頼関係を築くことができる。 ● 利益相反について理解し、職業上発生する利害に適切に対処できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者・家族の価値観や社会的背景に配慮し、対応できる。
II. 医学的知識	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会、文化、自然、生命に関する知識を有する。 ● 人間・科学・医学の観点から倫理を理解する。 ● 物質代謝や生命活動の基盤を説明できる。 ● 各器官系の組織像を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人体の構造と機能について説明できる。 ● 病原微生物と生体防御について説明できる。 ● 基本的病態の発生機序を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要な疾患の病理学的変化について説明できる。 ● 薬力学、薬物動態について説明できる。 ● 社会医学の意義とその実践方法を説明できる。 ● 重要な疾患における疫学、症候、病因、病理、病態、治療、予後に関する知識を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床的に重要な疾患における知識を包括的に理解し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。 ● 法医学の知識を有し、社会的意義を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を医療・保健活動に応用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療に関する課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境、人口動態の観点から説明できる。
III. 問題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書や論文、検索情報をもとに問題点を抽出できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 得られた情報を統合し、客観的・批判的に自分の考えを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者のプロブレムを発見し、重要性・必要性を順位付けできる。 ● 患者・家族、診療チーム・ケアスタッフの意見を尊重しながら、節度を持ってEBMの技術を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者のプロブレムを解決する具体的方法を発見し、課題を解決できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者のプロブレムに対して、指導医や他職種と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
IV. 診察技能と患者ケア	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生や教員を尊重し適切な行動をとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師の義務と裁量に関する基本的態度を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者が心理・社会背景を含む多彩な問題を抱えていることが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病歴を適切に聴取することができる。 ● 基本的な身体診察ができる。 ● 臨床推論の重要性を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者から情報収集を行い、臨床推論によって適切な鑑別診断が行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要な疾患の適切な治療計画を立てられる。 ● 診療チームの一員として救急医療や慢性期医療に参画できる。
V. コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ● 口頭・文書で自分の考えを人に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者・家族の話に傾聴し、共感することができる。 ● 患者・家族の精神的・身体的苦痛に配慮できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の心理・社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 ● わかりやすい症例提示ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の心理・社会的背景を踏まえながら患者・家族と良好な関係を築き、意思決定を支援することができる。
VI. チーム医療の実践	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ学習において自分の役割を理解できる。 ● 協力・共同の価値を理解し、相手を尊重したコミュニケーションをとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ学習においてリーダーとしての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多職種からなる診療チームの機能と連携を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。 ● 患者・家族への対応、チーム医療・多職種連携を行う際に重要となる自らの姿勢に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療・福祉・介護等、患者に関わる全ての領域の人々の役割を理解し、連携することができる。

VII. 医療の質と安全の管理	<ul style="list-style-type: none"> ●医療上の事故について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療関連感染症について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療安全の基本的予防策を概説できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療上の事故等が発生したときの状況や緊急処置について報告することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療上の事故等や医療関連感染症等に遭遇した際に、その対応方法に関する議論ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供できる。
VIII. 社会における医療の実践と国際的視野	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が抱える課題を理解し、その解決方法に関する議論ができる。 ●自分と周囲の身近な人との関係性の中に「社会」の基本が存在することに気づき、社会を身近に実感することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医等の役割やプライマリ・ケアならびに地域医療の必要性を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療に積極的に参加・貢献する姿勢を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●英語により医学・医療に関する情報を入手し、発信できる。 ●患者背景へのアプローチや地域・社会の観察を行うための方法を通じ、他者と共感することができる。 ●自ら認識した地域・社会の課題への対応策を使命感・郷土愛に基づいて発案することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●患者の文化的背景を理解し、多様性を尊重した医療を実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療人としての社会的役割を担い、地域とともに創造し、世界に向かって発信することができる。
IX. 科学的探究	<ul style="list-style-type: none"> ●医学研究の必要性について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医学研究の社会的意義について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究活動に参加し、研究発表や論文作成ができる。 ●研究倫理指針を理解し、遵守できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎医学あるいは臨床医学の講義・実習で得た知識をもとに、疾患の病態解析ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●患者や疾患の分析をもとに、最新の情報を検索・統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、問題解決に向けた研究活動に参加できる。
X. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な情報を検索することができる。 ●進歩する医学に合わせ、自らも成長し続ける姿勢の重要性に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題を解決するための方法について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎・臨床医学の知識・技術を用い、研究活動に参加することができる。 ●臨床的知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床的知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。 ●省察と他者との意見共有を重ねながら、謙虚な姿勢で学び続けることの価値を認識できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医師としてのキャリアを継続させ、生涯にわたり自己研鑽を行う意欲を有する。

2019年4月17日 医学科会議承認
2019年11月20日 医学科会議一部改正承認